

## レビ記12章「女から生まれた者」

### 1A 不浄の期間 1-5

#### 1B 男の子の出産 1-4

#### 2B 女の子の出産 5

### 2A 献げ物 6-8

## 本文

レビ記 12 章を開いてください。私たちは前回から「清めと汚れの区別」についての教えを学んでいます。10 章において、アロンの息子が、主に命じられていない異なった火を捧げたことで火によって焼かれてしまいましたが、聖なるものと俗なるもの、清さと汚れを区別する教えを与えられました。そして初めに出てきたのが、11 章の食物規定です。清い動物と汚れた動物がいましたが、私たちはそれらが、内側から出てくる汚れを表していることを学びました。律法には、目に見えない清めについて、目に見える形で表現しているものであることを学んでいます。そして 12 章も、その考えが続きます。女が子を出産する時に、不浄に期間に入るといふのです。

### 1A 不浄の期間 1-5

#### 1B 男の子の出産 1-4

<sup>1</sup> 主はモーセにこう告げられた。<sup>2</sup>「イスラエルの子らに告げよ。女が身重になり、男の子を産んだとき、その女は七日の間汚れ、月のさわりの不浄の期間と同じように汚れる。

お母さんが赤ちゃんを産むと、出血が続きます。「悪露」と呼ばれます。それが一か月以上続きますが、徐々に少なくなります。その色も初めは鮮血のような赤さですが、時間が経つと褐色になり、黄色になり、クリーム色、そして白色に変わっていくそうです。この出血を汚れであると主はみなされます。

主がここで汚れを教えておられるのは、それ自体が汚れているということではありません。もちろん、衛生面では悪露は確かに汚いです。ちなみに、宗教的なユダヤ人の女性は、この長い期間、多くの活動をする事ができないので、産後休暇を自ずと取ることができます。そうした肉体面における利点は大いにあり、理にかなっています。しかし、主がここで語られているのはそれが主な目的ではありません。

その人自身の罪深さや汚れを表しているのではありません。イスラエルは、神が聖なる国民として、諸国民に対してご自分が聖なる方であることを表すために選ばれた民です。したがって、その国民生活そのものが神の証しとなっています。彼らの日常生活の中に神が規定を設けられるこ

とによって、そこに表象している霊的な真理を認めることができるのです。前回学びましたように、これらのものは後に来るものの影であって、実体はキリストにあるのです。

それで、その霊的真理とは何でしょうか？「出産」というのは、罪の贖いに密接に関わっている重要な話題です。創世記を思い出してください。主は、被造物に、「生めよ、増えよ、地に満ちよ」と命じられました。人間にも命じられました。ところがエバが蛇に惑わしを受け、そしてアダムが罪を犯しました。そして主が、子を産む祝福において、出産時における呪いを与えられました。「創 3:16 わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。」出産時における陣痛は、主が造られた元々の目的ではなかったのです。

したがって、子を産むということについて、確かに祝福という面がある一方で、罪が世界にはいつてきたという厳粛な現実を想起する出来事になっているのです。「詩 127:3 見よ 子どもたちは【主】の賜物 胎の実は報酬。」と詩篇にはあります。子を産むことは大いなる祝福です。けれども、私たちが知らなければいけない厳しい事実は、「母の胎にいる時から、その子は罪を宿している。」という事実です。ダビデは、自分がバテ・シェバと姦淫の罪を犯して、その罪を告白している時に、「詩 51:5 ご覧ください。私は咎ある者として生まれ罪ある者として母は私を身ごもりました。」と言いました。母の胎にいる時から持っていた罪が、もう壮年になっていたであろう彼が犯した姦淫の罪を犯させた、というわけです。

ここで私たちは、救いにおいて非常に大切な教理を知る必要があります。ローマ5章12節です。「こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に——」アダムから罪を受け継ぐようになってしまいました。生まれてからしばらくして罪を犯して罪人になるのではなく、生まれながらにして罪の性質を持っており、それで罪を犯すのです。

そのような弱さをもっている存在を、聖書では「女から生まれた者」と呼んでいます。そのまま、罪を犯してしまう弱さを持っているのが人間というものだということを言い表しているのです。ヨブが言いました。「14:1 女から生まれた人間は、その齢が短く、心乱されることで満ちています。」永遠に生きることのできない存在であり、またその人生の中で乱されることが多いとのこと。「15:14 どういう人が清くあり得るのか。女から生まれた者で、だれが正しくあり得るのか。」全く清い者などいない、ということです。

そして、イエス様がこう言われました。「マタ 11:11 まことに、あなたがたに言います。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより偉大な者は現れませんでした。しかし、天の御国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。」人間の世界の中では、バプテスマのヨハネが最も偉大である、ということです。彼が、キリストが来られたことを伝える預言者となったからです。そして主イエスご

自身も、女から生まれた者としてパウロが説明しています。「ガラ 4:4 しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。」人としては、ユダヤ人として来られたということです。

<sup>3</sup> 八日目には、その子の包皮の肉に割礼を施す。

割礼がモーセの律法の中で定められました。すでに、アブラハムに対して神はその子種が契約の民に入ることを表すために、八日目に割礼を施しなさいと命じられました。ですから男の子は、母親は不浄の期間にいるけれども、それによって、男の子が割礼を受けない理由にはなりません。そのまま、神の民になる印を受けます。

<sup>4</sup> 彼女は血のきよめのために、さらに三十三日間こもる。そのきよめの期間が満ちるまでは、いかなる聖なるものにも触れてはならない。また聖所に入ってはならない。

不浄の期間は、初めの七日間と次の三十三日間に分れます。初めの七日間は、月のさわりの時と同じと1節にありましたが、レビ記15章で月経の時の不浄の期間が七日間です。七日は、完全数で神を指し示しています。それから、33日間ですが、これを足すと四十日になります。「四十」という数字は、神の与える試練や裁きの時に使われる数字です。四十日の雨が、洪水の時に降りました。律法という神の裁きの定めを与えられたモーセは、四十歳でエジプトから荒野へ、八十歳でイスラエルを率いて、百二十歳で死にました。そしてイエス様は、四十日間の断食の後で悪魔の誘惑を受けられました。アダムが罪を犯して以来、主が来られる時まで、この試しの時が続いて行ったわけです。

## 2B 女の子の出産 5

<sup>5</sup> 女の子を産んだ場合は、月のさわりの時と同じように二週間汚れる。彼女は、血のきよめがなされる必要があるので、さらに六十六日間こもる。

不浄の期間が、男の子の出産の場合と二倍違います。男の子を産んだ場合は七日間のところが、二週間。さらに、血のきよめがなされるために、男の子は三十三日間ですが、その二倍、六十六日間です。合計四十日間に対し、八十日間です。なぜ二倍違うのか？これは、この女の子も将来、新たに子を産むという現実を表しているかと思われます。この女の子が成長して、男に結ばれて子を産む時には、その子も罪を受け継いでしまっている事実です。そのことを見据えて二倍の期間になっているかと思われます。

## 2A 献げ物 6-8

<sup>6</sup> 彼女のきよめの期間が満ちたら、息子の場合であっても娘の場合であっても、全焼のささげ物と

して一歳の子羊一匹と、罪のきよめのささげ物として家鳩のひなか山鳩を一羽、会見の天幕の入り口にいる祭司のところに持って行く。<sup>7</sup> 祭司はこれを主の前に献げ、彼女のために宥めを行い、彼女はその出血の汚れからきよくなる。これが、男の子であれ女の子であれ、子を産む女についてのおしえである。

しかし大事なのは、この期間がいつまでも続くのではないということです。四十日、または八十日が過ぎれば、清めの期間が満ちます。汚れの後には必ず清めがあります。ここに福音があります。出産が、罪が世界にはいつて来たことの現実を表しているのですが、清めは義が世界にはいつて来たことを表しています。先ほど引用したローマ 5 章の言葉の続きになります。「ロマ 5:15 しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。」つまり、イエスというたった一人の方が、十字架におけるたった一つの義の行ないによって、罪の中で死んでいた数多くの人々を生かすことができる、というものです。私たちにある、生まれながらの罪は、キリストにある義の性質に取って変えられたのです。私たちがどんなに罪を犯したとしても、キリストにある神の恵みはそれをすべて義に取り替えてしまったのです。「ロマ 5:20 罪の増し加わるところに、恵みも満ちあふれました。」

そして、その恵みに対する応答が、信仰による従順です。ここ 12 章においては、全焼のささげ物と、罪のきよめのためのささげ物です。主イエスが、罪のきよめのために血を流して死んでくださったのですが、その血の注ぎを受け、また自分自身を主に献げます。全焼のいけにえです。

<sup>8</sup> しかし、もし彼女に羊を買う余裕がなければ、二羽の山鳩か、二羽の家鳩のひなを取り、一羽は全焼のささげ物、もう一羽は罪のきよめのささげ物とする。祭司は彼女のために宥めを行い、彼女はきよくなる。」

基本は子羊を全焼のいけにえとして、鳩を罪のためのいけにえとして供えますが、経済的余裕のない人は、羊のかわりに鳩を献げることもできます。

イエスの両親は、この部類にありました。ルカ 2 章によると、清めの期間が終わってエルサレムに行った夫婦は、二羽の鳩をいけにえとして捧げています(ルカ 2:24)。イエス様は貧しさの中で生まれました。それは、あらゆる人がイエス様によって富むことができるようになるためです。「Ⅱコリ 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」もし主が富んでいる方であれば、私たちの弱さや貧しさに届くことはできなかったでしょう。けれども、この方が貧しくなられたことにより、私たちは富んでいても、貧しくてもその生活に満足する秘訣を学ぶことができ、かつ、他の人々に自分の生活を分かち合

うことのできる豊かさや余裕を与られます。

このようにして、女の出産を通して、女を通して罪が満ちていっていることを示し、その清めによって、女から出たキリストを通して、恵みが満ちて行ったところを見ました。

女の人働きは、大きいですね。子を産み、育てるところに、罪の現実がありながらも、そこから敬虔な働きをしていくことができるという期待があります。パウロは、テモテ第一 2 章の最後で、「2:15 女は、慎みをもって、信仰と愛と聖さにとどまるなら、子を産むことによって救われます。」と言いました。マリアが、世界の罪を取り除くキリストを世にもたらし、この子を成人するまで育て上げましたが、同じように、主を畏れ、敬虔に生きる人々を、幼い時から主にあって教育して、世にもたやすことができます。牧者チャック・スミスも、敬虔な女性によって幼い時に、聖書を身につけられて、それでご自身が死ぬまぎわで、その時にはすでに牧者になっていたチャックに、自分が主にこの子を献げる祈りを献げていたことを明かしました。

そしてもちろん、女の人に限らず、また子を持っている人に限らず、私たちには、キリストの恵みによって変えられ、また人々を変えて行く大きな働きが用意されています。